

2014.4.11

比較現代日本論講読I

現代日本論論文講読

東北大学文学研究科

2014年度

田中 重人 (准教授)

【目的】

- 論文の探しかた
- 論文の読みかた
- プレゼンテーション
- 現代日本文化の知識

【予定】

- インTRODクシヨN
- 論文検索
- 資料作成
- 各論文の報告
(1本につき4人で2週間)

論文は、各自の興味にあわせて
受講者が選んだものから

日本語2 + 英語2

= 計4本の予定

録画しておいて、担当者2人で見直す
機会を途中でもちます

【成績評価】

- 課題 30%
- 報告 40% (2回できなかった人は別途課題)
- 質疑 30%

【教科書】

東北大学附属図書館 『情報探索の基礎知識』

- 基本編
- 人文社会科学編

(品切 → オンライン版)

【参考書】

諏訪邦雄 『発表の技法』 ほか

受講登録フォーム記入

- 氏名・学年など
- テーマ
- 経験に関する調査

【論文の探しかた】

- 人に聞く
- 入門書・概説書・展望論文
- ブラウジング
- 芋づる式
- 文献データベース

【論文の読みかた】

- Scanning: 鍵概念 (定義・用例)
- Skimming: 構造 (目次)
- 図表
- ロジック (結論ー根拠)

【プレゼンテーション】

学会発表型

- ・ **提示資料** (パソコン、OHP、スライド)
情報をわかりやすく整理する
- ・ **配布資料** (handout)
詳しい情報を示す
報告を聞かなくてもわかるように
論文としての体裁を整える

【質疑応答】

質疑応答の目的とは？

- ★ 報告前・報告中に質問・意見を考える
- ★ 質問か意見か
- ★ 内容が全員にわかるように

司会の役割

【雑誌論文の種類】

- ★ 雑誌の性質
Peer Review 制の雑誌か？
- ★ 原著論文・研究ノート・調査報告...
- ★ 投稿論文と依頼論文

【査読制度】

投稿された論文を雑誌にのせる基準：

→ 専門家による審査 (peer review)

【査読制度】

投稿された論文を雑誌にのせる基準：

- － 新しい内容か？
- － 有用性はどの程度あるか？
- － 内容は正しいか？

→ 専門家による審査 (peer review)

通常の審査手続き

- ★ 編集委員が審査員をえらぶ (ふつう複数)
- ★ 審査員にまわして判断を求める
- ★ 審査員が一致して「掲載可」ならそのまま掲載
- ★ 一致して「掲載不可」ならのせない
- ★ 意見が割れた場合は編集委員が判断
- ★ 「条件付」の場合は書き直して再提出・再審査

- Peer Review 制雑誌は権威が高い
 - ・ 「学術雑誌」の要件のひとつ
- ただし掲載まで時間がかかる。
独創的な論文は載りにくい

【原著論文その他】

★ 原著論文 (ふつうの論文)

★ 研究ノート・調査報告など

原著論文より質は落ちるが、
速報性を要求されるもの

【投稿論文と依頼論文】

- 投稿論文.....
通常の手続きで投稿・審査
- 依頼論文.....
編集委員会の依頼で書く
(テーマのきまった特集論文など)
審査のある場合とない場合がある

- この授業では、査読制 雑誌の
原著投稿論文 を主対象とする
- 最初の2本は日本語論文、
あとは英語論文

宿題

- 教科書を読む
- テーマとキーワード